



第7回宮教研連のつどい特集号 No.145

宮崎県教育研究連合会

事務局 宮崎市西池町 9-8(校長会館内)

TEL・FAX (0985)27-4508

https://miyakyoukenren.sakura.ne.jp

第七回 宮教研連のつどい 令和三年八月二十八日開催
大会テーマ
今、令和の日本型学校教育を考える

宮崎県教育研究連合会 組織部長 大脇 一洋



記念講演 講師 辻村哲夫氏

令和三年八月二十八日、第七回「宮教研連のつどい」を行いました。昨年度と同様、オンラインによる開催となりましたが、会員の皆様をはじめ、県内多くの方々にご参加いただき、ありがとうございました。

（学習機会と学力の保障、全人的な発達・成長の保障、身体的・精神的な健康の保障）を重視してきました。令和の日本型学校教育でも、この学校教育の本質的な役割を継承しつつも、一方で、時代の変化に対応し



文責
つどい担当
大脇



た更なる取組が必要になってくるということでした。子どもたちの明るい未来のために、私たち教職員が今後取り組んでいくべきことを明確に示していただきました。これからの研修意欲につながる、たいへん有意義な講演会となりました。

オンラインライブ配信となった記念講演では、公益財団法人学習情報研究センター理事長の辻村哲夫氏を講師に迎え、「学校教育の現状と課題」令和の日本型学校教育答申とGIGAスクール構想を踏まえて」を演題に貴重なお話を聞かせていただきました。

「令和の日本型学校教育」「GIGAスクール構想」「学校教育の現状と課題」を講演の柱として、今後の教育の在り方について多くのことをご教授いただきました。

その中で、令和の日本型学校教育を考える。特に強調されたのは、これまでの日本型学校教育においては、「二つの保障」



オンラインで挨拶する花宮会長

令和3年度第7回宮教研連のつどい
ごあいさつ

宮崎県教育研究連合会主催 令和3年度第7回宮教研連のつどいが開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。また、日頃より、本県教育の充実・発展に努めていただいておりますことに、感謝申し上げます。

この夏は、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、アスリートの懸命な姿から多くの感動と勇気をもたらしているところですが、依然として、新型コロナウイルス感染拡大の状況が続いております。夏季休業後の各学校の取組につきましては、「学習機会の保障」と、「安心・安全の確保」の両側面に配慮しながら対応していただき、早期に第5波が沈静化することを願っているところであります。

さて、新学習指導要領が、令和2年度の小学校に引き続き、中学校では本年度から全面実施されました。今回の改訂では、「社会に開かれた教育課程」を重視することや、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善などがポイントとしてあげられています。

また、現在の学校教育の課題として「学校における働き方改革の推進」、「GIGAスクール構想の実現」などがあり、さらに、令和3年1月に出された中央教育審議会の答申では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体的に充実することが示されました。

今後、社会の変化はさらに加速度を増し、複雑で予測困難となっていく中、いかに対処していくかという受け身の姿勢ではなく、変化を前向きに受け止め、新しい未来の姿を実現していくことが大切であります。そのため、県教育委員会では、今年度は、「いのちを大切に教育の推進」「地域と学校の連携・協働による多様な活動の充実」「学校における働き方改革の推進」の3つに「教育の情報化」を加えた4つを重点取組といたしました。各学校では、改めて今年度をICTの活用元年と位置づけ、ポストコロナ時代やSociety 5.0時代に相応しい「宮崎ならではの『令和の日本型学校教育』」の実現に向け、これまでの教育実践の蓄積とICTの長所のベストミックスを図り、教育の情報化を推進していただきたいと思います。

そのような中、本会が、テーマ「今、令和の日本型教育を考える」のもと開催され、研究発表及び記念講演により「新学習指導要領をどう展開するか?」「GIGAスクール元年に何を取り組むか?」について研究を進められることは、本県教育の充実にとりましても誠に意義深いものと感じております。

最後になりましたが、宮崎県教育研究連合会のさらなる御発展と、各学校において中心となって活躍されている皆様方の御健勝・御活躍を心からお祈り申し上げましてあいさつといたします。

令和3年8月28日

宮崎県教育庁 義務教育課長 吉田 英明

令和3年度 第7回 宮教研連のつどい 研究発表

伝え合う力を高める指導の工夫
 ～人とのかかわりを大切にした
 「話すこと・聞くこと」の指導を通して～
 宮崎市立榎小学校 吉井湧人 教諭

<研究仮説>

小学校低学年国語科「話すこと・聞くこと」の指導において、以下に示す工夫を行いながら段階的に指導することにより、話す技能、聞く技能が身に付くとともに、伝え合いへの自信や意欲をもつことができ、伝え合う力が高まるであろう。



- 話す技能の指導の工夫
- 聞く技能の指導の工夫
- 協働的な学びを促す指導の工夫

<研究の実際>

- 伝え合う力とは
人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力（「小学校学習指導要領解説国語編」（2017））
- 指導事項を踏まえた授業づくり
学習指導要領に示された各学年における「A話すこと・聞くこと」の指導事項と構成要素を元に、指導の在り方を以下の表に整理した。これに基づき、検証授業を行った。

動画による話し合いの振り返り

「話すこと・聞くこと」の指導の在り方

「聞くこと」を重視した指導の在り方	「聞く」については「聴く」という能動的な姿勢と「訊く」という尋ねる積極的な関与の姿勢がある。まず、「聞くこと」の価値に気付かせることが重要である。
音声による教材開発	より学習をリアルに体験するための音声による教材開発が重要である。
必然性のある教材開発	形骸化したものではなく、学習内容に必然性があるものにすることが重要である。
音声言語による文化財の教材化	日常生活の中で学習者が身近に感じるものや社会、生活の中で重要視されているものを選ぶことが重要である。

※滝浪常雄、国語科における「話すこと・聞くこと」の指導の課題、安田女子大学紀要 41、2013年 に基づき作成

<研究の成果>

- 今回の手立て（話し合いのしかたの提示や、困ったことの共有、動画での振り返り等）の有効性。特に、自分たちの話し合いと「話し合いのしかた」とを客観的に見比べなど。
- 児童は「話すこと・聞くこと」の技能を生かして、自分なりの考えを伝えたり学び合ったりすることにより、他者との関わり合いを通して、伝え合いへの喜びや楽しさ、意欲が高まる。

<今後の課題>

- 発達段階に応じた場の工夫等
- 他の授業や日常生活の様々な場面との関連
- 伝え合う力の形成過程を想定しながらの教材分析・教材研究

これからの時代に求められる資質・能力の
 向上を実現するための指導の在り方
 ～ICTの効果的な活用を通して～
 西都市立穂北小学校 緒方啓亮 教諭

<研究仮説>

ICTを効果的に活用することができれば、児童の学習意欲、及びICT活用能力を向上させることができるであろう。

<研究の実際>

- 児童の学習意欲の向上
 - ICT機器を活用した授業づくり
 - ① 一斉学習の場面でのICT活用
 - ② 調べ学習でのICT活用
運動場の植物を写真に撮り、教室で検索して調べる学習

 - ③ アプリケーション(教材ソフト等)を利用した学習

(2) Zoomを活用した遠隔授業の実践

- ① 理科「天気による気温の変化」
運動場に設置した温度計とつなぐ
- ② 道徳「生命の尊さ」
産後のお母さん、赤ちゃんとの遠隔授業
- ③ 道徳「国際理解」
外国の日本人学校で働く先生との遠隔授業



2 児童のICT活用能力の向上

- (1) プログラミング教育
- (2) ICT機器の操作や機能の理解

<研究の成果>

- 児童の学習意欲の向上
- ICTに触れる機会を増やすことで、ICT機器の活用能力の向上につながった

<研究の課題>

- 全児童の活用能力の向上には継続指導が必要。
- 教師の負担が大きく、継続して取り組むには工夫が必要。
- 一人1台端末の実現に合わせた、幅広い活用を工夫していく必要もある。

令和3年度 第7回 宮教研連のつどい 研究発表

自分のよさや可能性に気づき、
自尊感情を高める指導の在り方
～言葉と音楽による環境改善を通して～
宮崎市立大塚小学校 福島龍太郎 教諭

<研究仮説>

仮説1 言葉による環境改善

自らの長所を他者から継続的・多面的に認められる機会を設定し、セルフイメージを変えることができれば、児童は自尊感情を高めることができるであろう。

仮説2 音楽による環境改善

児童の実態をふまえ、場面に応じた音楽を活用することにより、児童の心と体の調子を整えることができるであろう。

<研究の実際>

1 言葉による環境改善

(1) 学級集団に対する手立て

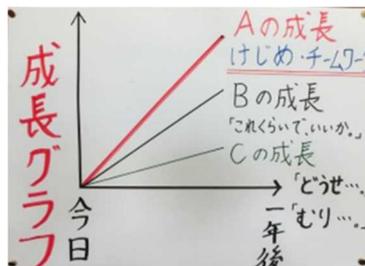
① 成長グラフ

学級開きの際、ゴールイメージを持たせる

② Aの成長への道 毎日の目標と振り返り

(2) 個人に対する手立て

① ほめ言葉のシャワー



② 学級活動

- ・「教えて。ぼく、わたしの良いところ」
- ・「話そう！聞こう！みんな友達」

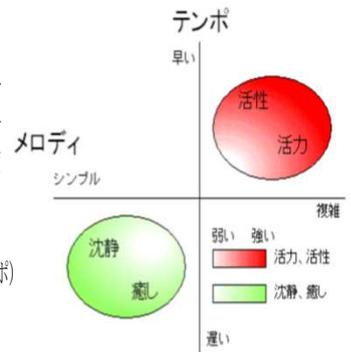
③ 宅習へ・良いところアルバム

良いところカードを交換しあい、アルバム化する

2 音楽による環境改善

学校場面において音楽を活用することで、児童を活性的な気分や沈静的な気分にし、学校生活への満足度を高め、自尊感情の高まりにつなげる。

- 使用した音楽の例(数字はテンポ)
- 情熱大陸 (1 2 8)
- 紅蓮華 (1 3 5)
- G線上のアリア (6 0)



<研究の成果>

- 主体的に互いの良さを見つける姿が見られ、自分の良さを本音で伝えてもらうことができた。
 - 自分のよさに気づき、自尊感情を高めることができた
 - 音楽の活用は、学習効果など、一定の効果はある。
- <今後の課題>
- セルフイメージの変容までは至らなかった。
 - 児童の好みや、テンポとメロディをもとに音楽を選定し、より効果的に気分の変容を促したい。

子どもの自己有用感を高める学級活動の在り方
～人を思いやる表現やスキルの育成を通して～
高千穂町立高千穂小学校 馬原巧平 教諭

<研究仮説>

- 児童が互いに褒め合う場の設定や認め合う態度の育成を行うことで、安心して学校生活を送ることができるであろう。
- 学級の課題を児童自らが見出し、解決を行うことにより、児童が安心して、学校生活を送り、自己有用感を高めることができるであろう。
- 児童の個々の課題に寄り添った教育相談の充実と仲間づくりのスキルの育成を図ることで、自己有用感を高めることができるであろう。

<研究の実際>

1 褒め合う場の設定

褒め言葉のシャワーと学級へ波及するための実践

- ・帰りの会の中の時間設定



- ル ○ 日直の1日の行動を観察する。
- ル ○ 日直の頑張りを言葉で伝える。
- ル ○ 必ず褒める。

・認め合う態度の育成

わたしメッセージに関する学級活動授業実践
・家庭での褒める場の設定 学級通信の活用

2 課題を自ら見出し、解決する態度の育成

「あすみな3松ミッション」の取組

約2か月に1回のペースでミッションを設定し、児童自らが、段階的に課題を見つけて、解決していく活動

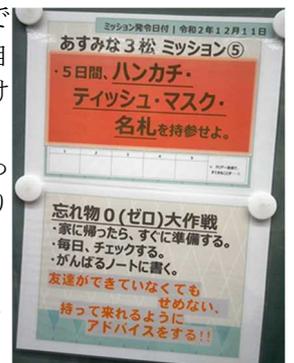
3 児童の個々の課題に寄り添った教育相談の充実と仲間づくりスキルの育成

<研究の成果>

- 友達を日常的に褒めるスキルが身につき、自己有用感を継続してもたせることにつながった。
- 学級や個人の課題に向けた行動が見られるようになり、成就感と自信をもって、行動できるようになってきた。

<研究の課題>

- 意図的・計画的に継続して行う必要がある。
- 複雑な家庭環境にある児童もおり、学校と家庭と相互連携と家庭への啓発が必要である。



令和3年度 第3回 宮教研連のつどい 記念講演 講師:辻村哲夫氏
「学校教育の現状と課題」 ～『令和の日本型学校教育』答申とGIGAスクール構想を踏まえて～

【記念講演概要】

講師の辻村哲夫氏は、かつて、文部省初等中等教育局長在任中、いわゆる「ゆとり教育」を中心的に推進されていた方です。その知見から、今回の「令和の日本型学校教育」答申の課題と可能性、今後の展望を、解説して頂きました。



今答申は、「誰一人取り残すことのない持続可能な多様性と包摂性のある社会の実現に向け、『持続可能な社会の創り手』を求める我が国を含めた世界全体でSDGsに取り組んでいる中で、ツールとしてのICTを基盤としつつ、日本型学校教育を発展させ、2020年代を通じて実現を目指す。」として出されています。これに対し、辻村先生は、「全ての子供たちの一定水準の教育を保障する平等性・全人教育」等の良さを継承していることは評価しつつ、以下のような諸点を踏まえ、『令和の日本型学校教育』の構築にあたるべきだ」とされています。(超抜粋)

- ・学校と地域住民等とが連携・協働し、学校と地域がパートナーとして、一体となって子供たちの成長を支援する
- ・教師、多様な外部人材、保護者・地域、福祉機関その他地域の関係機関との連携・分担による学校マネジメントの実現を目指す
- ・二項対立の考え方でなく、それぞれの良さを適切に組み合わせ生かしていく。(一斉か個別か、履修主義か習得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインか 等々)
- ・これまでの実践とICTとの最適な組み合わせを実現する

(ICTは学校教育に必要不可欠で、基盤的なツールとして最大限に活用していく)

一方、GIGAスクール構想の推進にあたっては、以下のような視点が大切だと指摘されました。(超抜粋)

- ・対面指導と遠隔・オンライン教育の併用の推進
- ・従前の教育に適応できなかった児童生徒への学習支援などの教育の現代化と授業改善
- ・学習履歴や標準化された教育データの活用 など

最後に、今後の課題として、「あまり多くのことを教えることなかれ。しかし、教えるべきことは徹底的に教えるべし」というホワイトヘッドの言葉を改めてかみしめる必要があるとして、学校・教師は、その役割・任務の再確認を行い、実行していく必要があると、締め括られました。

「宮教研連アーカイブ」のお知らせ

宮教研連ホームページでは、これまで蓄積してきた研修・講演の動画や資料、研究論文などをアーカイブして、公開しています。今回の宮教研連のつどいの研究発表・記念講演の動画もごさいます。ぜひ、毎日の子供も達の指導に、ご自分の研究推進に、ご活用ください。(会員限定コンテンツを閲覧するには、最初にユーザー登録が必要です。)

署名活動等へのご協力のお礼

今年も実施された全日教連の署名活動と全国Web調査につきましては、夏期休業中にもかかわらず、多数の会員の先生方にご協力をいただきました。私たち、学校現場の教師の思いを伝えようと、700筆近くの多数の署名が集まりました。ご協力、誠にありがとうございました。

宮教研連HP & 研修会のWeb申込

宮教研連では、HP・Webでの情報提供に力を入れ、研修案内や報告、ダウンロードページ等、内容の充実を図っています。是非、ご覧ください。URLは以下です。(「宮教研連」で検索！)

<https://miyakyoukenren.sakura.ne.jp>

また、令和2年度から県主催の研修は全てWeb上から申込となっております。PCでも携帯端末からでも利用できますので、ぜひ、ご活用ください。

宮教研連メールグループ (MKKR-MG)

宮教研連では、研修会の開催情報やその他の役立つ情報を会員お一人お一人にお届けするために、メールグループを運営しています。これは、GoogleGroupsの無料サービスを利用して提供するものです。ぜひ、全ての会員の皆様にご登録頂きますよう、お願いいたします。

ご登録は mkkkr.mlist@gmail.com (右QRコード)まで、「宮教研連 MG 参加希望」とお書きの上、メールをお送り下さい。おおよそ1週間以内には登録されます。

教師力向上セミナー

- すぐに役立つ 授業のヒント 満載！
- 若い先生からベテランまで 授業のお悩み 解消！
- 実践的な アイディア いっぱい！

②:10月30日(土) 授業改善と学力向上 (オンライン) 講師:中西英(本郷小・スーパーティチャー)

③:11月27日(土) 内容未定 (会場:日向市内)

スクールマネジメント研修

こんなお悩みにお答えします!!

企業経営にみる 学校経営に活かせる ヒントは?	教頭を目指しているけど、何から勉強してよいかわからない	新型コロナウイルス感染症対策を どう進めれば?
学校の経営課題と 対応策を学びたい	管理職試験に向けての対策は?	管理職に必要な リーダシップ とは?

③:1月27日(土) 学校におけるSDGs教育(仮題)